

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日					
アフタースクールわんぱく		年 月 日					
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100	0	十分なスペースがある。空室を設け、クールダウンスペースにしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	必要な支援の度合いによって職員配置を工夫している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100	0	玄関の段差は可動式のスロープを適宜設置している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100	0	活動の前後に整理整頓、清掃、消毒等を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100	0	子どもの要望や必要に応じて別室で過ごせるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100	0	活動終了後に個人記録を記入し、翌朝正職員で反省を行う。その結果を基に日々の打ち合わせを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	保護者の評価表の結果を受け職員会議で検討している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	日々の打ち合わせ以外でもできる限り意見を受け入れている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	87.5	12.5	「良好」という評価をいただいている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	87.5	22.5	虐待研修、感染症研修は全員、外部研修については正規職員を主に行っている。	外部研修について、パート職員でも希望があれば受けられるよう努めている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	公表されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100	0	保護者の方とのモニタリング、関係機関との情報交換、ケース会議等を行い計画を作成している。	タイミングが前後することはあるが必ず行うようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	子どもの情報は職員間で共有し、ケース会議等で検討し計画作成している。	記録で共有することで全員に周知できるようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	支援計画を含めた記録を読む時間も勤務時間として一定程度保障している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	1年に1回標準化されたツールを用いたアセスメントを行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	ガイドラインに沿って設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	プログラム内容の提案や改善について常に意見を求め、立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	複数の職員が立案にあたることで固定化しないよう工夫している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	状況に応じて行えるよう計画作成し、個別、集団活動を組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	前日の反省や子供の様子を振り返り、予想される課題や対策について確認する。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	87.5	12.5	翌朝正職員で振り返りを行い、活動前の打ち合わせでその内容を全職員で共有する。	記録やメモで伝える場合もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100	0	支援終了後に記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	6か月に1度は行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100	0	意識して取り入れるようにしている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100	0	日頃から自己選択、自己決定の機会を大切に、本人の選択を尊重するようにしている。	選択肢の数や提示方法を個別に工夫し、選択の機会を持てるようにする。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	電話や相談支援員の訪問等で情報、意見交換している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100	0	協力医療機関を設けている。学校での引継ぎ時に子供の様子を聞きその日の活動の参考にしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100	0	主に保護者を通じて情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	75	25	同法人内のわんぱくキッズを利用していた児童が多いので、情報共有はスムーズに行われている。	中高生主体のため就学前の情報については保護者やわんぱくキッズを通じて情報を得ることが多い。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	87.5	12.5	相談支援事業所を通じて情報を提供することがある。	必要となれば直接情報提供することもできる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100	0	行っていない。	中高生主体のため。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	62.5	38.5	行事を通じて手作りのプレゼントを交換したりする、間接的な交流はある。	交流を望まない保護者もいるが、地域の公園や公共施設等で偶発的に交流する機会はある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	50	50	参加したことはある。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	連絡帳、電話、メール等でできる限り伝え合う機会を設けている。	送迎時は話す時間がなく、モニタリングや保護者会以外になかなか直接保護者と話す機会がもてない。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	保護者会と同日にペアレントトレーニングを行った。	
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	契約時に行い、質問があれば都度受け付けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	ご家族の意向はモニタリング等でお聞きするとともに、子ども本人の意向も聞く機会をできる限り設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100	0	内容に質問があれば伝えてもらうようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	モニタリング以外でも相談があれば話を伺い、共感したり助言や支援を行っている。	相談に応じるための情報収集やスキルアップに努める。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100	0	年に1回は保護者会を行うようにしている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	苦情等の受付窓口を設けている。貴重なご意見ご要望として真摯に受け止め迅速に対応するよう心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100	0	月に1度程度アフター便りを発行している。法人全体としても年1回以上はわんばんく通信を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	子どもたちとは個々に応じて、言葉、文字、サイン、絵、音声等で意思疎通している。保護者とは連絡の取りやすいツールを利用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	75	25	地域住民の行事への招待は行っていない。イオンによるクリスマスサンタ、ボランティア、介護等体験を受け入れている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0	各種マニュアルを作成し、配布している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100	0	1か月に1度災害を想定した訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100	0	年度ごとに個人票を提出してもらい、子どもの状況を記入してもらっている。発作に関してはより詳しい対応方法を聞き、職員で共有	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	75	25	医師の指示書が必要なアレルギーの子はいないが、必要となれば迅速に対応する。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	ガイドラインに沿って設定している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100	0	マニュアルを配布している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	記入後に全職員が目を通し、会議や打ち合わせ等で原因や改善点について話し合う。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	虐待チェックリストを年2回、研修についても全職員に義務付けられている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100	0	支援計画に載せて保護者の了解を得ている。		